

## 第17回 沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング 報告

テーマ『沖縄県がん対策推進計画（第2次）中間評価－在宅医療について－』

1. 日 時：平成27年11月15日（日）13:00～16:00

2. 場 所：浦添市てだこホール 生涯学習棟2階 多目的室1

3. 参加人数：16名（一般6名、医療関係者8名、政党・自治体関係者2名）

### 4. プログラム

司会：井岡 亜希子（琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教）

#### ・講演

「在宅医療の実際」

喜納 美津男 氏（きなクリニック院長）

「沖縄県がん対策推進計画（第2次）中間評価－在宅医療について－」

井岡 亜希子 氏（琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教）

「在宅医療をめぐる“ものがたり”の倫理～人生を紡ぐことの意味を考える～」

金城 隆展 氏（琉球大学医学部附属病院 地域医療部 臨床倫理士）

#### ・総合討論

（パネリスト）

喜納 美津男 氏、金城 隆展 氏、西銘 純恵 氏（沖縄県議会議員）、増田 昌人、井岡 亜希子

### 5. ご意見シート集計

ご意見シート回答数：6名

#### 【問1】第2次沖縄県がん対策推進計画について

1. 知っている：3名      2. 知らない：2名      ※無回答：1名

#### 【問2】第2次沖縄県がん対策推進計画の内容について

1. とても満足：0名      2. 満足：0名      3. ふつう：1名  
4. すこし不満：0名      5. 不満：0名      6. わからない：2名

#### 【問3】「在宅医療」のイメージについてお聞かせください。

・訪問して診療する医療

・本人がおだやかな最期を迎えることができる。患者家族などの後悔が残らない（十分な支えが必須）。

- ・介護のイメージ（認知症のお年寄りの面倒を見る等）があります。在宅での「医療」とは、どんなものになるのでしょうか。
- ・少しわかりかけてきた。まだまだ理解が必要。
- ・まだまだ一般の方に周知されていない（病院関係者にも）。

**【問4】「在宅医療」について、疑問に思っていること、お聞きしたいことがございましたら、ご記入ください。**

- ・機会あるごとに学んでいきたい。自分の住む町では具体的にどのようなに行っているか。
- ・関係機関や職種・地域をどのように巻き込んでいくか。
- ・社会資源の少ない環境での取り組み・工夫等はどのような方法があるのか。

**【問5】あなた、もしくはあなたの身近な人の病気によって思ったことやわかったことを教えてください。**

- ・身近な人の病気は、相手の人生に思いをはせたり、お互いの関係を考え直すきっかけになると共に、自分の生き方をどのようにした方が良いかを意識する。
- ・病院スタッフが看取りに対応できていない（ケアに関して、鎮静について、心理的、精神的フォロー、家族ケア）
- ・医師の説明を聞いても十分に理解できない人が多い。医師によって説明の度合いも違う。

**【問6】第2次沖縄県がん対策推進計画及び中間評価（案）をお読みになって、「在宅医療」について、何かご意見がございましたら、ご記入ください。**

<不十分と思うこと>

- ・まだまだ24時間対応できる医師が少ない。
- ・多くが不十分だと思う。アウトカムをよりよいものにするには多くの人の意見や声を取り入れる必要があると思うが、報告会では常に少人数だし、広報されることがないのではないか。
- ・在宅医療を推進されますが、小児がん、40歳未満の若年齢の方への介護や福祉用具の貸与についても検討していただきたい。

\*回答者について

ご家族などを、がんで亡くされた方／がん患者支援者、ボランティア：1名、  
医師会、看護協会などの職能団体：1名、在宅緩和ケアスタッフ1名、その他1名、無回答2名

\*回答者のお住い

那覇市：1名、南風原町：1名、名護市：1名、無回答3名